

診療報酬明細書点検調査結果を用いた 医師誘発需要仮説の検証[†]

湯田 道生*

中京大学 経済学部

[概 要]

医師誘発需要仮説は、医療政策に対して非常に重要な政策的インプリケーションを持つことから、医療経済学の分野において、最も議論され続けている研究課題の一つである。本稿では、保険者が行っている診療報酬明細書点検調査結果のデータを用いることで、先行研究が抱えてきた分析上の課題を克服し、誘発需要の原因となる要因の検証と、誘発需要が医療費に与える影響を分析している。本稿の主な結果は以下の通りである。誘発需要の主な原因は、診療報酬の削減改定による負の所得効果によるものであり、特に、医師密度が高い地域の医師ほど、価格改定に対する反応が強いことがうかがえる結果が得られた。その一方で、従来から議論のある医師密度の増加による誘発需要の存在は確認されなかった。第二に、誘発需要が医療費総額に与える正で有意な影響は確認されなかった。第三に、2000年の公的介護保険制度の導入以来、誘発需要量が有意に減少していることが確認された。

キーワード：医師誘発需要仮説，国民健康保険，診療報酬明細書点検調査，McGuire and Pauly model

JEL Classification Number : C33, I11

[†] 本稿は日本学術振興会特別研究員制度（課題番号 17・10149），および科学研究費補助金（課題番号 19830087）からの研究助成を受けている。なお，本稿の誤りはすべて筆者に帰するものである。

* 連絡先：〒466-8666 名古屋市昭和区八事本町 101-2

E-Mail：yudamich+[at]+mecl.chukyo-u.ac.jp

URL：<http://www.econo.chukyo-u.ac.jp/yuda/toppage.html>